

平成14年7月5日
原子力安全対策課
(14-44)
<11時資料配付>

敦賀発電所2号機の原子炉起動と調整運転開始について
(第12回定期検査)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力116.0万kW）は、平成14年6月11日から第12回定期検査を実施していたが、7月7日に原子炉を起動し、同日、臨界となる予定である。

その後は諸試験を実施し、7月上旬に定期検査の最終段階である調整運転を開始し、8月上旬には経済産業省の最終検査を受けて営業運転を再開する予定である。

なお、敦賀発電所2号機は、今回の調整運転開始から、定格熱出力一定運転*1を実施する。

*1)原子炉熱出力を常に一定(100%)として運転する方法で、海水の温度が下がり、復水器の性能(熱効率)が良くなる冬季において、これまでの定格電気出力を最大で約2.5%程度上回る運転が見込まれる。

1. 主要工事等

(1) 湿分分離加熱器伝熱管取替工事 (図-1参照)

蒸気発生器の信頼性向上の観点から、湿分分離加熱器(A・B)第1段の伝熱管を銅系材料のものからステンレス系材料のものに取り替え、蒸気発生器への不純物の持ち込みの低減を図った。

(2) 定格熱出力一定運転関連工事

定格熱出力一定運転を導入するにあたり、運転管理の信頼性をより一層向上させるため、中央制御室に原子炉熱出力を常時表示する原子炉熱出力表示器を設置した。また、運転情報を管理しているコンピュータのソフト改良や、発電機出力の監視画面の改良を行った。

2. 蒸気発生器伝熱管の渦流探傷検査結果

蒸気発生器4台すべてについて、蒸気発生器伝熱管全数(施栓管を除く：13,524本)の渦流探傷検査を実施した結果、異常は認められなかった。

3. 燃料集合体の取替え

燃料集合体全数193体のうち、81体(うち80体は新燃料集合体で、新燃料は全て高燃焼度燃料集合体)を取替えた。

4. 次回定期検査の予定

平成15年 秋頃

問い合わせ先(担当：小西) 内線2354・直通0776(20)0314
--

<参考資料>

敦賀発電所2号機の第12回定期検査に関する補足説明資料

- (1) 原子炉起動 : 7月7日 9時頃
- (2) 臨界 : 7月7日 18時頃
- (3) 調整運転開始 :

タービンバランシング作業*の有無によって調整運転開始日が異なります。

タービンバランシング作業	調整運転開始日
無	7月9日 夕方頃
有	7月11日 朝頃

*タービンバランシング作業
調整運転開始前にタービン発電機の回転数を上昇させ、タービンの車軸の振動の状況を確認し、振動が大きい場合はタービンの車軸にバランスウエイトを取付け、軸のつりあいを調整する作業。

- (4) 営業運転再開 : 8月上旬

(参考)

調整運転開始日によっては、これまでの最短定期検査実績(発電停止期間)を更新することになる。

7月9日の場合: 発電停止29日間 (PWRで過去最短)

7月11日の場合: 発電停止31日間

○過去の最短定期検査実績(発電停止期間)

- ・ PWR 大飯発電所4号機 31日間(H14.3.17～4.16)
- ・ BWR 浜岡発電所4号機 29日間(H13.5.13～6.11)